

令和3年

季刊

春季号

Vol.77

# 亞東



台湾列車事故弔問（令和3年4月6日）



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

## 一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研

究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出

版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収

集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対

する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和三年 春季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
「日本台湾親善協会副会長 柴田徳文先生のご逝去を悼み」	四頁
副会長 並木 正芳	五頁
柴田徳文先生に偲う	五頁
理事 富田 家彰	六頁
列車脱線事故の弔問	六頁
業務執行理事 岩田 善信	七頁
「東京・横濱の中華學校について」	七頁
季刊「亜東」編集部	七頁
「横濱中華學院 新校舎完成」	七頁
横濱中華學院 理事長 羅 鴻健	九頁
「台湾フェスタ実行委員会から」	九頁
業務執行理事 笹岡(朱) 恭亮	一一頁
事務局だより	一一頁

令和2年5月12日 現在

### 役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎	張 建国	張 碧華
会長	衛藤征士郎	張 碧華	
副会長	山本順三	張 碧華	
	並木正芳		
専務理事	赤松 則宏		
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮	
	岩田 善信		
理事	21名	張 建国	張 碧華
	衛藤征士郎	張 碧華	山本順三
	藤赤野有忠	張 碧華	順省二郎
	松野有忠	張 碧華	並木益城
	伊野有忠	張 碧華	正芳茂英
	榎本多	張 碧華	光善信
監事	2名	李 八口ル下	鈴木 慶一
事務局		崎谷 秀彦	
		李 孔晔	

一般社団法人 日本台湾親善協会

## 「日本台湾親善協会副会長柴田徳文先生のご逝去を悼み」



副会長 並木 正芳

日本台湾親善協会副会長

柴田徳文氏におかれましては、かねてより多発性骨髄腫のため加療中でしたが、去る四月六日午後、病状にわかに悪化し、世田谷区内の高齢者施設においてご逝去なされました。まだ七四歳、早すぎるお別れです。

葬儀は柴田家と国士館との合同葬で、十日夕刻より通夜式、十一日午前に告別式が世田谷区の勝國寺青龍殿においてしめやかに執り行われました。

茲に柴田氏の在りし日のお姿をお偲び致し、当協会への数々のご貢献に感謝申し上げ、謹んでお知らせ申し上げます。

徳文氏は、祖父は国士館大学創立者の柴田徳次郎氏、父は学校法人国士館館長柴田梵天氏のもとで生まれ、国士館中学校・高等学校を経て、国士館大学政経学部政治学科を卒業、大学院政治学研究科修士課程・博士課程に進まれ、国士館大学政経学部助手から二〇〇一年には教授と学究の道を歩まれました。

この間アメリカ合衆国セント・ジョーンズ大学大学院MOAも取得され、国士館短期大学副学長、国士館大学副学長も務められました。

日本国際政治学会、日本政治学会、日本中東学会、国際憲法学会などに所属され、「アメリカのパナマ侵攻と満州事変」「日本の在満権益は侵略によるものか」「東京裁判におけるパリ不戦条約の適用」「ハル・ノートは最後通牒だったのか」などの戦後日本史を再検証する数多くの論文も発表されていました。

二〇一七年に国士館大学定年退職後は、名誉教授として、翌年には、『日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、日本の国家社会の将来を担う眞の智力と胆力を備えた人材「国士」を養成する』という国士館の建学の志を継承するに相応しい人物として「国士館館長」に就任され今後のご活躍が大いに期待されていました。

日本台湾親善協会でも理事・副会長として理事会、親善交流事業、台湾訪問などに欠かさず出席され、持ち前の見識で常に的確なご意見を述べられ、まさに「何者にも代えがたい方」として人望を集めておられました。

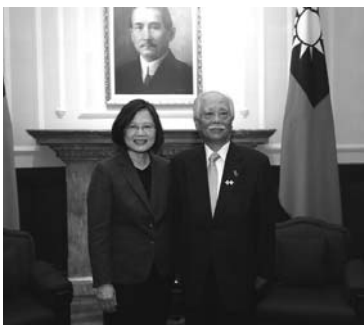
また、カメラの趣味を活かしていただき、当協会の季刊誌である『亜東』の編集に際して写真をご提供くださり、編集会議の中心的役割も果たしてくださいました。

折からのコロナ禍で台湾訪問も儘ならず、コロナ禍が収まったら台湾親善訪問やグルメ旅行にもぜひ行きたいと常々おっしゃっておられたのにもう帰らぬ人となってしまいました。

今はただご功労に敬意を表し、悲しみに耐え、心よりご冥福をお祈りするばかりです。

合掌

## 柴田徳文先生に偲う



理事 富田 家彰

私と柴田先生との出会いは、一〇年前私が叔母の付き添いで初めて会に参加した時でした。

初対面の印象は「気骨稜稜」な方でした。そして会での親交を重ねて行くうちに時たま見せる仕草から私的にはアインシュタインの

舌を出している写真を思い出します。なので心の中では尊敬を込めて和風アインシュタイン博士と呼んでいました。

私が理事になってからは色々と丁寧にご指導を受け賜って戴けたことにいつも感謝していました。

日本と台湾の関係や歴史の繋がりが現代日本史では省かれる部分を色々と教えていただきよき先輩であり、師でもありました。今度台湾行く時は一緒に高雄や台南など歴史のかげらを探索にしようとも約束しました。今はただただもう一緒に台湾に行けないことをとても残念に思う。

柴田先生のお元気な姿を見たのは平成三〇年の一〇月四谷中華学校での中華民国国慶節式典の時でした。ご病気を抱えておられる事も感じさせず、(一社) 日本台湾親善協会会長代理と

してのスピーチは凛と威厳を持って中華民国の正統性と平和、繁栄など祝言を綴りました。

スピーチ後、式典会場からは割れんばかりの拍手がおこったのを覚えております。

昨年はコロナ禍もあり、理事会の開催も少なく、先生も出席しなくなりました。

先週別件で事務所に寄った時に初めて訃報と病名を知り一瞬目の前が暗くなり絶句してしまい、心に空洞を穿った感覚が走り脱力感を覚えました。

先生の早世は

今もそこに柴田先生がいるような錯覚を感じています。



理事会にて



講演会にて

## 列車脱線事故の弔問

業務執行理事 岩田 善信

二〇二二年四月六日、衛藤征士郎会長他日本台湾親善協会の五名は、東京・白金台の台北駐日経済文化代表処を訪れ、駐日代表の謝長廷氏に面会し、四月二日午前の特急列車脱線事故により亡くなった方々とそのご遺族に弔意をお伝えし、負傷された方々にお見舞いを申し上げた。

日本台湾親善協会より衛藤征士郎会長が代表して、弔慰金をお渡ししようとしたところ、謝長廷代表は、感謝の念を表しながらも、国から弔慰金は受け取らないとの通達があったので受け取れませんとのことであった。

事故の概要は次のとおりである。「台湾北部・新北市の樹林駅を出発して台湾南東部・台東県の台東駅へ向かう特急「太魯閣（タロコ号）」第四〇八列車が二日午前、台湾東部・花蓮県の清水トンネルで工事作業用トラックと衝突し、一部車両がトンネル内で脱線する事故が発生した。この事故により死者五〇名、負傷者二〇〇名以上を出す大惨事となった。」

謝長廷代表によると、この事故による死亡者数は、当初マスコミによると五〇名だったが、「DNA鑑定により正確には四九名です。」と伝えられた。また、「トンネルとトンネルとの間

が近くカーブを抜けたところに、工事作業用トラックが線路上に見え緊急ブレーキをかけたが、間に合わず、衝突脱線、トンネルの壁に激突した。」との説明があった。

台湾の特急列車の脱線事故で、当局は一部の遺体の損傷が激しいためDNA鑑定で身元の特定を進め、四月十一日、鑑定の結果、これまで五十人としていた死者の数を四十九人に修正すると発表した。

謝長廷代表はご自身のフェイスブックで、日本の各方面からSNSやメールでお見舞いのメッセージが寄せられていることを明らかにしている。

なお、四月七日現在、この列車脱線事故に対し、お見舞いのメッセージが、世界九十七の国及び国際組織合計八百四十六名より寄せられている。





## 「東京・横濱の中華學校について」

季刊「亜東」編集部

当会の「社会見学」で訪問した「東京中華學校」と「横濱中華學校」ともに本年四月度より新校長が就任されました。

東京中華學校は当会の張建国副会長が元理事長であり、当会の張碧華副会長と、当会の藤山(程)雅康理事、李ハロルド監事が学校の理事を務めており、当会にとつても縁の深い学校です。中華民國台湾の在日華僑華人の教育を主としており、学校には中華民國の國旗が掲揚されています。教育の重点として、良識の語学教育があり、中国語はもちろん、日本語、英語も重視されています。また、父母に従い、師と友を敬う心を培う倫理道徳教育も重んじています。

本年、三月、永年にわたり、学校教育の向上に尽力された劉劍城校長が退任され、台湾に帰国されました。後任には東京中華學校の卒業生であり、中華民國台湾政府外交部及び台北駐日經濟文化代表處僑務組部長を歴任された、王東生氏が四月より新校長に就任されました。

また、「横濱中華學院」は、新校舎が完成し、三月二十七日に落成式が行われ、馮彦國校長より、新校長に杜文劍副校長が四月より就任する事を紹介されました。

両校とも、今後とも日本と中華民國台湾の架け橋として、卒業生の活躍が期待されます。

## 「横濱中華學院 新校舎完成」

横濱中華學院 理事長 羅 鴻健



皆様 この度は横濱中華學院新校舎が完成し、二〇二二年三月二十七日に新校舎落成式を無事に行うことが出来ました。

同校新校舎建設のために中華民國政府および華僑委員会の全国的な支持と華僑界および卒業生からの寄付、横濱市議会議員、神奈川県議会をはじめとする議員の先生方、そして皆様をはじめとする多くの多くの方々のご協力に深い感謝と心からの御礼を申し上げます。

同校横濱中華學院は一八九七年に孫文先生により、日本初の華僑の學校として創立された歴史ある學校です。

旧校舎は、時の流れとともに老朽化が進んだことにより、新校舎建設計画を立ち上げ、二〇一九年三月、新校舎の起工式を行い、二年の工事期間を経て、この度の新校舎完成に至りました。

本年度四月からは、長きにわたり同校の生徒の教育と新校舎建て替え事業に貢献された馮校長は同校校長職を副校長であった杜文劍に新校長として引き継ぐこととなりました。

今後も横濱中華學院は良質な中国語教育をはじめ、より一層の生徒の育成に努力してまいりますので、皆様、今後とも横濱中華學院をどうぞよろしく願います。

この度の新校舎完成におきましては重ねて御礼申し上げます。



東京中華學校



橫濱中華學院  
落成式典



完成した新校舍



## 「台湾フェスタ実行委員会から」

一般社団法人 台湾フェスタ実行委員会

一般社団法人 日本台湾親善協会

業務執行理事 笹岡(朱) 恭亮

台湾フェスタは現在、コロナ感染のため、会場での開催はしていません。二〇一九年七月に第四回目の開催においては、様々な国の文化交流の聖地・代々木公園において二日間で二十万人を超える大イベントとして成長いたしました。やはりこの要因としては、日本と中華民国台湾の良好な関係が生んだ、お互いの国が好き、人が好きということが一つの文化として今の時代に成熟して生まれたものと感じています。

国交のない中華民国台湾を親善交流を信条に日本と中華民国台湾の関係強化推進して頂いた当会と多くの多くの親善交流に尽力くださった方々に、あらためて感謝申し上げますと感じております。第四回の台湾フェスタの集客数は、各国イベントの中でも一番、二番と言われる様な規模でした。

これはやはり台湾人気のおかげと思います。

二〇二〇年、昨年は例年通り七月の代々木公園での開催でしたが、オリンピック開催のため、その年の十二月の開催にしました。しかし、二〇一九年末より、海外においてコロナ感染症が発生し、二〇二〇年には日本でもコロナ感染者が多く発生し、オリンピック開催も延期されました。二〇二〇年一二月の開催

は中止し、二〇二〇年十二月から二〇二一年四月まで「台湾フェスタ・オンライン」を開催いたしました。オンラインでは台湾のフルーツや文化・

料理・台湾タレントとのトークショーなどを紹介するなどのオンラインでのイベントを行いました。この度、オンライン・イベントは初めての開催ですが、やはり、実際のイベントの開催の動員力、認知度の効果は、あらためて、す

ごいと感じました。台湾フェスタ実行委員会としてもイベント開催をしたい、という気持ちはありますが、台湾本国がコロナ感染に対して厳しい対策をして、感染者を最小限に抑えている中では、私達もコロナが終息するまではイベントの安易な開催は絶対にしないと決定しています。そんな中ですが、終息を期待して、本年一月十一日(土)十二月十二日(日)の二日間を代々木公園に開催の予約は取っています。この先、どうなるかわかりませんが、このまま動きが止まってしまわないようにあらたに台湾と日本との親善交流の場として二〇二一年台湾フェスタ・オンラインを企画開催いたします。



今回のオンライン・イベント「台湾フェスタ・オンライン No. 2」は前回第一回の経験を生かし、最大限、オンライン上での効果を上げたいと思います。

台湾の観光地の紹介や日本の台湾料理店の紹介、台湾料理の美味しい作り方など、魅力いっぱいです。多くの皆様に「日本と中華民国台湾の親善交流」の主旨にご理解とご賛同をお願いいたします。

また、一般社団法人日本台湾親善協会をはじめとする前回ご後援、ご協力いただいた方々には今後ともご後援、ご協力のほど、どうぞよろしく願います。

開催日はweb上で紹介  
詳しくは台湾フェスタ

Taiwan-festa.com



## 事務局だより

\*令和三年度 第七十二回 通常総会の開催

開催日 令和三年五月二十四日 月曜日 午後三時より

場所 ルポール麹町 二階 『サファイア』

尚、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況において、皆様の安全を第一に考え、予防措置の一環として、誠に勝手ながら、講演会・懇親会開催を中止することに致しました。

\*新入会員のご紹介

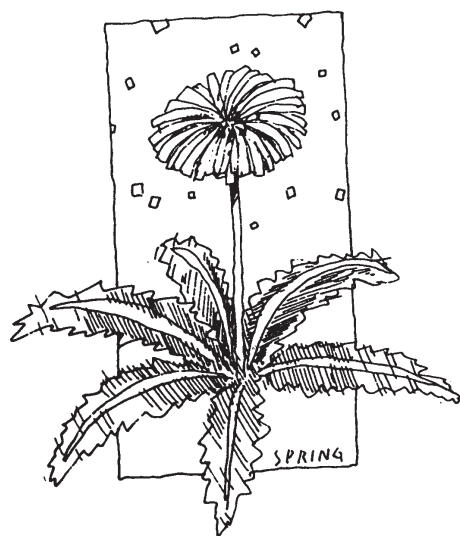
令和三年一月十日〜令和三年四月三十日

個人会員

川本 泰行

佐藤 千晶

石橋 直



季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和三年 春季号 (No.77)

発行日 : 令和3年4月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユー





# 台湾の翼

## チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは  
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航  
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案  
充実の法人プログラム  
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心  
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



[www.china-airlines.com/jp/jp](http://www.china-airlines.com/jp/jp)